

津山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語 V	
科目基礎情報							
科目番号	0041		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：『Science fo Fun!』（金星堂） ・ 参考書：英和辞典（電子辞書もしくは冊子）						
担当教員	山口 裕美,山口 均,住田 光子						
到達目標							
学習目的： 4 技能（聴き・読み・書き・話す）をバランスよく養成する。							
到達目標： 1.英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。 2.英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。 3.本文の要旨を英語でまとめることができる。 4.ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができる。 5○.日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。							
ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。		英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりがおおむねできる。		英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりが最低限できる。		英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできない。
評価項目2	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。		英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。		英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。		英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができない。
評価項目3	本文の要旨を英語でまとめることが十分できる。		本文の要旨を英語でまとめることができる。		本文の要旨を英語でまとめることが最低限できる。		本文の要旨を英語でまとめることができない。
評価項目4	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが十分できる。		ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができる。		ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが最低限できる。		ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができない。
評価項目5	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが十分できる。		日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。		日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが最低限できる。		日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができず，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：一般 学習の分野：英語・国際コミュニケーション推進プログラム 必修・必修履修・履修・履修選択・選択の別：必修履修 基礎となる学問分野：英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 学科学習目標との関連：本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」，「⑤グローバルな視点と社会性の養成」，「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（F）コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力の育成」であるが，付随的には「（B）地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。 授業の概要：教材を読み込んで要旨を英語でまとめ，それを口頭で相手に伝える練習をする。						
授業の進め方・方法	授業の方法：本科目は前期に開講する。本文内容を理解したうえで，音読をおこない，英語で要旨をまとめ，その内容についてプレゼンテーション形式で発表をおこなう。また，小テストを5回おこなう。 成績評価方法：2回の定期試験の結果を平均して評価する（50％）。定期試験の結果に加え，平素の課題，小テスト，発表など（50％）を総合して成績評価をおこなう。 試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。場合によっては再試験を実施する。						
注意点	履修上の注意：本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。 履修上のアドバイス：予習・復習・課題を指示するので必ず取り組むこと。 基礎科目：英語I（1年），英語表現I（1），英語II（2），英語表現II（2），英語III（3），英語IV（4），国際英語論I（4）、国際英語論II（4） 関連科目：コミュニケーション学I・II（4）、国際英語論I・II、異文化社会論I・II、日本社会論、日本文化論 受講上のアドバイス：積極的に授業に参加すること。教科書・英和辞書を持参し，予習や課題を取り組んだうえで授業に臨むこと。小テストは適宜おこなうので，必ず参加すること。 遅刻について：授業開始20分すぎでの入室は欠課扱いとする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	●ガイダンス（予習・復習など学習法の説明，受講上の注意）			本科目の目標や序行内容について理解を深める。	
		2週	●Unit 1			味覚について科学的に分析した英文を理解する。	
		3週	●Unit 2			砂漠について科学的に分析した英文を理解する。	

		4週	●Unit 3 小テスト①	クリスマス・ツリーについて科学的な視点で見た英文を理解する。
		5週	●Unit 4	ゼブラフィッシュについて科学的に分析した英文を理解する。
		6週	●Unit 5 小テスト②	シベリアリスと生命科学について分析した英文を理解する。
		7週	●Unit 6	海藻と腸内について科学的に分析した英文を理解する。
		8週	●前期中間試験	7週までのまとめができる。
	2ndQ	9週	●前期中間試験返却と解説	前期中間試験のフィードバックができる。
		10週	●Unit 7 小テスト③	未来の自動車について分析した英文を理解する。
		11週	●Unit 8	音楽と脳について科学的に分析した英文を理解する。
		12週	●Unit 9 小テスト④	宇宙について分析した英文を理解する。
		13週	●Unit 10	交通事故について科学的に分析した英文を理解する。
		14週	●Unit 11 小テスト⑤	腸内と微生物について科学的に分析した英文を理解する。
		15週	●前期末試験	14週までのまとめができる。
		16週	前期末試験の返却と解説	前期末試験のフィードバックができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
		英語運用能力向上のための学習		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略 (ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適 切に用いることができる。	3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前8,前 9,前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15,前16
--	--	--	--	--	---	--

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	小テスト	課題	合計
総合評価割合	50	0	0	0	25	25	100
基礎的能力	50	0	0	0	25	25	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0